

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月28日

学校法人のびる学園  
幼保連携型認定こども園  
のびる幼稚園  
園長 月野 進

学校評価委員会 佐藤真吾 小野啓一  
中島英輔 瀬川早紀

## 1. 本園の教育目標

「自分で遊びを見つけられる子」

遊びは、子どもの生活の全てです。自分で遊びを見つけられる事ができたときに、子どもは初めて自己の確立の第一歩を踏み出したこととなります。一人遊びでも集団遊びでも子どもが見つけた遊びを否定せず、認める事が大切だと考えます。

「他人を思いやる心」「自然を大切に作る心」「自分を大切に思う心」は、自分で遊びを見つけられる子になる大切な3つです。そしてのびる幼稚園が大切に思っている「博愛」の大切な表れだと考えます。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

<今年度 学年目標>

- 0歳児…一人ひとりの発達に応じた援助のもと、離乳の完了や歩行の完了を促し、身の回りのものへの興味・関心を広げる。
- 1歳児…一日の生活リズムを整えながら、食事・排泄・着脱など、身の回りのことを自分でしようとする
- 2歳児（満3歳児）…象徴機能や想像力を広げながら、集団活動に参加する。
- 3歳児…身近な仲間や自然等の環境と積極的にかかわり、意欲を持って活動する
- 4歳児…信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする
- 5歳児…集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる

<今年度園内研修>

子どもを中心に、人を育てる～お互いに育ち合う～

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作り	B	<ul style="list-style-type: none"><li>• Chatwork を利用し、職員に向けての全体連絡、クラス間連絡、欠席（早退・遅刻）連絡、ヒヤリハット等を共有していった。</li><li>職員が集まったの直接の情報共有が難しくなっている現状としては職員全員に一齐に連絡ができ、連絡漏れがなくなった。各自で確認する際にも自分の都合の良いタイミングで内容を確認し、リアクションによって既読を伝える事が出来る点が良かったように思う。</li><li>また、口頭伝達では興味の有無や担任外のクラスの事だから、と聞き流してしまうような内容についても文章で必ず届く事で内容を確認してもらえようになり、自分の学年・クラスの子どもや職員の事だけでなく、のびる幼稚園全体の事として意識してもらえきっかけとなっている。</li><li>• 朝登園して身支度を整えた子から自由遊びに向かうようになっているが、朝のコーナー遊びで開いている場所が主に運動遊び（園庭・ホール）と、低年</li></ul>

			<p>齡児の保育室でのブロックやおままごととなっていた。興味ある遊びや、遊びを毎日継続して行いたい、という子にとっては良い環境ではあったが、新しい遊びを見つけない、自分のイメージするものを満足するまで形にしたい、という子にとっては物足りない様子もみられた。</p> <p>遊び班を通して室内遊びを盛り上げるための設定案の提示があったが、職員間で声を掛け合うという保育形態では常勤・非常勤で遊びに向かう気持ちに差があり、うまく設定・環境作りが行えなかった。</p> <p>対策として、3月より朝の職員配置を明確にし、遊びを盛り上げる意識を強く持つと共に、各職員が常勤・非常勤問わず配置された場所の安全を守ろうという意識や責任感を少しずつ持って取り組む姿勢が育ちつつあるように感じる。</p>
2	園内研修に取り組む 「子どもを中心に、人を育てる ～お互いに育ち合う～」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任会議を中心に、会議時間を取り進めていった。全体会議を開くことがなかなか難しい・意見が出ない状況のため、職員全員で世代別にわかれて話し合いを行った。現在の状況・それぞれの良い所・課題的な意見を出すことができた。</li> <li>今後課題に対して、どう解決するか、解決策を見出せず、批判的になりがちになってしまうため、職員の個々の良さをどう活かしてポジティブに解決策を見出す力をつけていきたい。</li> <li>・地域へのコミュニケーション、保護者へ園の様子を周知する為の園前掲示板内容の充実、園ブログでの発信を積極的に行った。掲示が充実した事で、昨年度よりも一層地域の方や保護者の方からそれらの内容についての声が聞かれる事が増えた。</li> </ul>
3	安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度より看護師が常駐する事になり、子ども達の怪我や病気の処置、毎日の怪我・病気の状況と共有、月間の怪我・病気の状況の集計と共有が徹底された。</li> <li>また、保健日よりメールを通して感染症・怪我の注意喚起、流行しつつある病気のお知らせを行う事ができ、それをきっかけに、集団生活を意識した対応を家庭でしていただける場面が増えた。</li> <li>職員自身も、怪我の報告をした際に看護師の怪我・病気に対する処置を間近で見ると、怪我・病気時の処置の方法、着目点等の学びへと繋がり、保健衛生に対する意識を高める事ができた。</li> <li>玄関・職員室に常駐し、怪我対応だけでなく来客・電話対応等も行って頂いたことで園自体の安全を守る事へも繋がったように思う。</li> <li>・昨年度から人数把握・確認を徹底して行ってきた事でクラスへの確認、出欠席者確認をするという意識が高まり職員内でも習慣付いた。</li> <li>・安全計画に基づいて避難訓練を行った。また、防災委員会を中心としてBCP事業継続計画を作成した。令和7年度より大規模地震発生時等におけるガイドラインが変更となるため、それに基づいてBCP事業継続計画の見直しを図る。</li> </ul>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>子どもの様子は多岐にわたり、個に寄り添った保育も必要となるための人的、物的、空間的、時間的等、課題が多い。できる限り改善できるよう努力しているが、園だけでは解決できない問題も多くなってきているので、多方面に呼び掛け、解決の糸口を見出していきたい。</p> <p>チーム保育が当園の特徴で一人一人の子どもを複数の目で見ることができるとある利点がある。その反面、誰かが見ているという、安心感もあり、他人任せになってしまうこともある。何かあった時に、園全体の問題と捉え、職員全員での情報共有・意見交換を行う必要がある。</p> <p>主任会議を毎月一度定例会議として設け、主任が順に議長となり議題をもって会議に取り組んだ。情報共有だけでなく、園行事に向けて気持ちの団結を行う事ができた。主任間での意見の取りまとめ・共有は行えたが、主任から伝達した内容がそのまま伝わらず内容に齟齬が生まれてしまう事があったため、次年度の課題となる。</p> <p>在園児の保護者に向けての読みやすいお便りを目指し、園だよりやクラスだよりにより写真を多く活用した。各クラスからも「おうちえん」を通して子どもの園での様子を発信していた。園内での生活の様子に興味や関心を持っている方が多く、喜ばれていた。夏休み、冬休みには各クラスから子育て支援の一環として、担任が子ども達に向けてお休み中の過ごし方を発信した事も、好評だった。</p> <p>また、出生児が年々減っている事で、のびる幼稚園も園児募集が課題となっている。園の様子や良さを外部の方にも知ってもらいたいという思いから園ブログやフェイスブック、インスタグラムの更新を強化しているところである。</p> <p>次年度は、子育て支援として体験保育、園庭開放を行い、園の良さを伝えていけるような保育を目指していきたい。</p> <p>今以上に質の高い教育・保育を提供するために、幼児の健やかな発達を促す上で日々の教育・保育を大切に、自己研鑽・向上に努めたい。幼保連携型認定こども園として、全職員が共通理解を図り、総合力で更に保育教育を盛り上げていきたいと思っています。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…あまり成果がなかった E…成果がなかった。)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教師間の連携	<p>&lt;職員間の明るい雰囲気作り&gt;            保育教諭間の資質向上            教師間のコミュニケーションの向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに心地よく感じる挨拶。</li> <li>・一人ひとりが礼儀正しくしていく(社会人としてのマナー)</li> <li>・ポジティブな言葉・表情(笑顔)・声のトーンを心掛ける。</li> <li>・ポジティブな言い回しへ変換、前向きな意見</li> <li>・「誰かがやってくれる」ではなく、「私もやりたい」と言える積極性</li> <li>・実践を行う人を尊重し、自分は何ができるか?と協力体制を持つ</li> <li>・一緒に仕事をする事仲間のことを考えて、報連相でスムーズに仕事を進める</li> <li>・自分の問題点や良い点を発見し、保育教諭としての資質向上を図る。</li> <li>・子どもの安全を守るため、職員間の声かけを心掛ける。</li> <li>・お互いを理解し、分かり合える職員間のつながりが必要。(お互いに言い</li> </ul>

		<p>合える環境づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員育成（より良い育成の方法を考える。）</li> <li>・情報共有 園全体や他クラスの様子について情報共有し意見交換できるように努める ざっくばらんに意見交換できるように進め方を工夫する</li> <li>・外部講師 孫ちゃんす先生の研修を取り入れる</li> </ul>
2	園内研修	<p>園内研修課題「子どもを中心に、人を育てる～お互いに育ち合う～」について、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長を第一に考える。（笑顔をわすれない）</li> <li>・保護者と一緒に子育てをしていく姿勢</li> <li>・人間関係を円滑にチームで仕事をする。（指示の具体性・積極的な意見）</li> <li>・子どもの気持ちに寄り添う保育（信じて待つ）</li> <li>・共に育ち合う保育のスキルアップ</li> <li>・園の教育目標「自分で遊びを見つけられる子」を考え保育を進める。</li> <li>・感情的になりすぎず、冷静に子どもを対処する。</li> <li>・命を預かる仕事（責任感を持つ）</li> <li>・定期的な会議の開催</li> <li>・0歳児～6歳児の子ども成長を知る。 一人一人が”育てる”を意識しコミュニケーションをとり、取り組む 園全員の職員で一人一人の子ども達を見守る、のびる幼稚園本来の保育、 チーム保育を見直す。</li> </ul>
3	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の人数把握</li> <li>・遊具点検（保育環境整備）</li> <li>・保健連絡</li> <li>・子どもの人権を尊重（名前の呼び捨て・差別用語・プライドを傷つける・言葉の暴力等には気をつける。また、無意識に使っていないか、職員間で確認しあう。）</li> <li>・守秘義務</li> <li>・子どもの特性を理解する</li> <li>・子どもへの安全指導 保育の中で「ヒヤリ」「ハット」を感じた時に、幼児と一緒に安全について考える</li> <li>・保護者への啓発・協力依頼</li> <li>・保健衛生の適切な対応</li> <li>・遊具使用時の注意点、子ども達への指導内容の共通理解</li> </ul>

## 6.学校関係者評価委員会の評価 全体評価 B

### ◎教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作り

意思疎通・コミュニケーションがはかられていた事が良かった。  
全員の子がわが子というような気持で接してくれている事が良かった。

### ◎園内研修

経験の浅い先生たちの話し合いは、内容が現状把握にとどまってしまうがちなり、改善策が生まれず、先に進んでいけない事が多いので、それに対してのアドバイスをを行う、という形にするとよいと思う。  
時間をみつけて職員同士が話をしているように思うので、意欲的だと感じる。

### ◎子ども達への取り扱い（職員の話し方・保育の進め方・保護者対応等について）

子ども達への職員の取り組みは良いものにみえる  
体制を整えているように思う  
時間をみつけて職員同士が話をしているように思うので、意欲的だと感じる  
子どもに対する先生方の態度は献身的。  
保護者間の関わりが不足しているように思われる。  
保護者同士の挨拶等、基本的なマナーの欠如が見受けられる。

### ◎行事について（進め方・開催方法等について）

伝統的な歌とオペレッタの会を続けて行って欲しい。  
後半に、行事が重なっているのを分散できればよいが。  
「園歌」を作ってみるのもよいと思う。行事の度に声高らかに歌える園歌があると愛園心の向上につながると思う。保護者の誇りも生まれてますますの園発展に寄与する。

### ◎その他ご意見

特徴のある園を保護者の方も選んでいるはず。園のよさ、特徴を発信できる場があれば良いですね。  
（新聞に出るような取り組み）  
歌が上手でした。  
のびる幼稚園の特色、キリスト教精神がもっと発揮できるような、アイデアがあるとよい。  
讃美歌や英語劇等もっと取り入れてみたらどうか。